



2023年4月3日

ランキング考

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 渡辺 博史

WBC (World Baseball Classic) が開催される中で、日本選手が頑張って優勝したことにより、野球への熱気とともに「順位」についての意識がまた盛り上がった感じがする。

スポーツの世界の中で、個人競技まで国歌、国旗で顕彰することを含めて国別の順位にこだわることは実はあまり好きではないが、順位、ランキングが付くということがまあ何となく自分たちの仲間という漠然とした意識対象である集団が世界の中でのどこら辺の立ち位置にいるのかという認識につながることは否めない。また、「良い」方からの順番で示されるランキングの高い方に位置していると心地良いことも事実である。

そんな中で、ランキングが下がり続けるものがあると、これはこれで何となく寂しい。顕著なのは GDP 総額である。これも、こんなものを使って国の順位付けをすること自体が間違っている、少なくとも一人当たりの数値で見べきである、いやいや健康指数、幸福指数、安全清浄指数、生涯達成指数など、全く違うもので考えるべきである、そもそも指数なんてものを使って比較しようというのがおかしい等々、と様々な議論があることは十分承知の上で、その在り方を肯定、是認をするかどうかは別にして、この分野についての現状認識はきっちりとしておいても良いだろう。

GDP 総額でみると、言うまでもなく、現状では日本はアメリカ、中国に次ぐ 3 番目に位置する。人口が減っていく中で、この順位が徐々に低下して行くのだろうなということをおぼろげに覚悟はしていても、「2027 年にもインドが日本を抜くことはほぼ間違いない」と言われるとドキッとするのは事実である。200 か国近くある中での 4 位なら立派なものだとも思うが、金・銀・銅のメダル授与対象順位、すなわち 3 位から下に転落することは極めて楽しくないと感じる方が多いだろう、という声が強い。インドに抜かれた時には、中国に抜かれた時以上の寂寥感が有るのではないかという指摘は多分正しいのだろう。

それでも、日本の 3 倍、あるいは 10 倍も人口がある国との比較ではどうしても負けるよと言って自らを慰めることは可能であろうが、2050 年以降、インドネシア、ブラジル、メキシコといった日本の 2 倍以上の人口を有する国々に順次抜かれていくことはなかなか受忍しにくいだろう。(とはいえ、2050 年までにインドネシアに抜かれる可能性

はかなり高いとされている。)

それに加えて、最近の分析を見ると、日本よりも人口の少ない国にも抜かれそうだという指摘もある。それはドイツである。1968年にGNPベースで日本がドイツを抜いて以降約60年ぶりに抜き返されるというのである。2022年のランキング（ベースはまだ2021年であるが）では、その差はかなり小さくなっていて、ドル換算の表示という性格上、ドルとそれぞれの通貨との為替レート次第では、換算後の数字でどちらが上になっているかは分からない状況になっている。（年間平均値が、もし1ドル=150円であれば、昨年すでに順位は変わっていた。）どちらもエネルギーを含む強度の輸入依存体質という脆弱性を工業製品、技術の優位による産業振興、輸出増加で補ってきたが、現状を比較すると、ドイツの方が日本よりもその優位性の低落を抑えることに成功しているということのようである。そしてそれらの面での優位喪失は、為替の減価も招き、ドルベースでのランキングの逆転を加速させることにもなる。（実は、今世紀初頭には、「日本はイギリスに抜かれるので」という予測が真剣に語られていた。当時は、インド、パキスタンなどからの人口流入が多く、金融業、不動産など自ら選択、特化した産業分野が好調だったこともあり、この人口増と好調産業の掛け算の結果としてイギリスはドイツ、日本を抜き返すと言われていた。しかしながら、その後のBREXITをはじめとする政治面での愚行に起因する経済収縮で、この話は雲散霧消した。）ということまで考えれば、人口の多寡だけで順位変動を弁解するわけにはいかないということになる。

人口の多寡に振り回されないようにして考えようというときに代替的に語られるのが、一人当たりGDPである。これが下がらないように努力することは肝要であるが、そのランキングは既に観て楽しいものではない。最新のデータ（2022年4月のIMF）によれば、日本は全世界で28位、アジアではブルネイ、シンガポール、マカオ、香港に次ぐ5位であり、6位につけていた台湾には既に昨年抜かれ、7位だった韓国にも、今年、2023年にも抜かれる可能性が高いとされる。なお面白いのは、この一人当たりGDPランキングのベスト10に顔を出すGDP大国はアメリカのみであり、他のG7各国は14位から33位までに散在する。ヨーロッパの人口小国が上位を占めているが、その理由が奈辺にあるかは改めて見ていく必要があるだろう。

また平均値は、ごく一部の高額所得者の数値によって上に引っ張られるということもあるので、「一人当たり中央値」で見てみよう。これで見ると世界ランキングでは14位にあり、さすがにアジアの中では、やや特異な位置づけの香港を除けば、日本が一番高い水準にあるようだ（Credit Suisse Global Wealth Databook 2022）。とはいうものの、台湾、韓国、シンガポールには肉薄されている。

などと綴っているうちに、3月20日に国連が世界の「幸福度」ランキングをまとめた報告書（World Happiness Report）を発表した。日本は前年から7位ランクを上げたものの全109か国中47位であった。アジアの中ではシンガポール、台湾に次ぐポジションにあり、韓国、マレーシアに肉薄されている。測定の仕方には色々ご意見があるだろうが、

ご参考まで。

また、話は変わるが、良く語られる「ビッグマック」の価格では、日本の価格はドル換算では41位（2022年、対象国54か国）となっており、昨年の1ドル=150円で換算すると、ベネズエラを最下位とする順位のブービーの位置にまで急落していた可能性が高い。これは、ある意味ではデysinフレの帰結でもあり、日本の場合、この価格は購買力平価の参考指標にはなっていないのかもしれない。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2023 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>